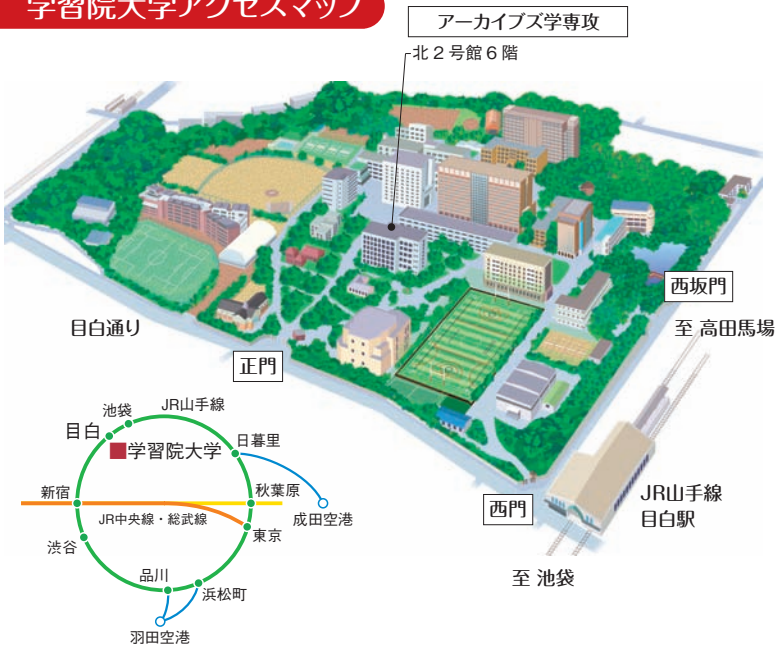


平成24年(2012年)度入学試験

- 博士前期課程 募集人員約15名
 秋期入学試験 2011年9月24日(土)・25日(日)
 出願期間 2011年9月2日(金)～9月6日(火)
 春期入学試験 2012年2月20日(月)・21日(火)
 出願期間 2012年1月10日(火)～1月12日(木)
 試験科目 外国語、アーカイブズ学に関する基本知識・論文、口述試験
- 博士後期課程 募集人員約3名
 入学試験 2012年2月20日(月)・21日(火)
 出願期間 2012年1月10日(火)～1月12日(木)
 試験科目 外国語、アーカイブズ学に関する専門知識・論文、口述試験

入試情報および資料請求については、学習院ホームページの「入試情報」をご覧ください。
<http://www.gakushuin.ac.jp/univ/adm/adm/main.html>

学習院大学アクセスマップ

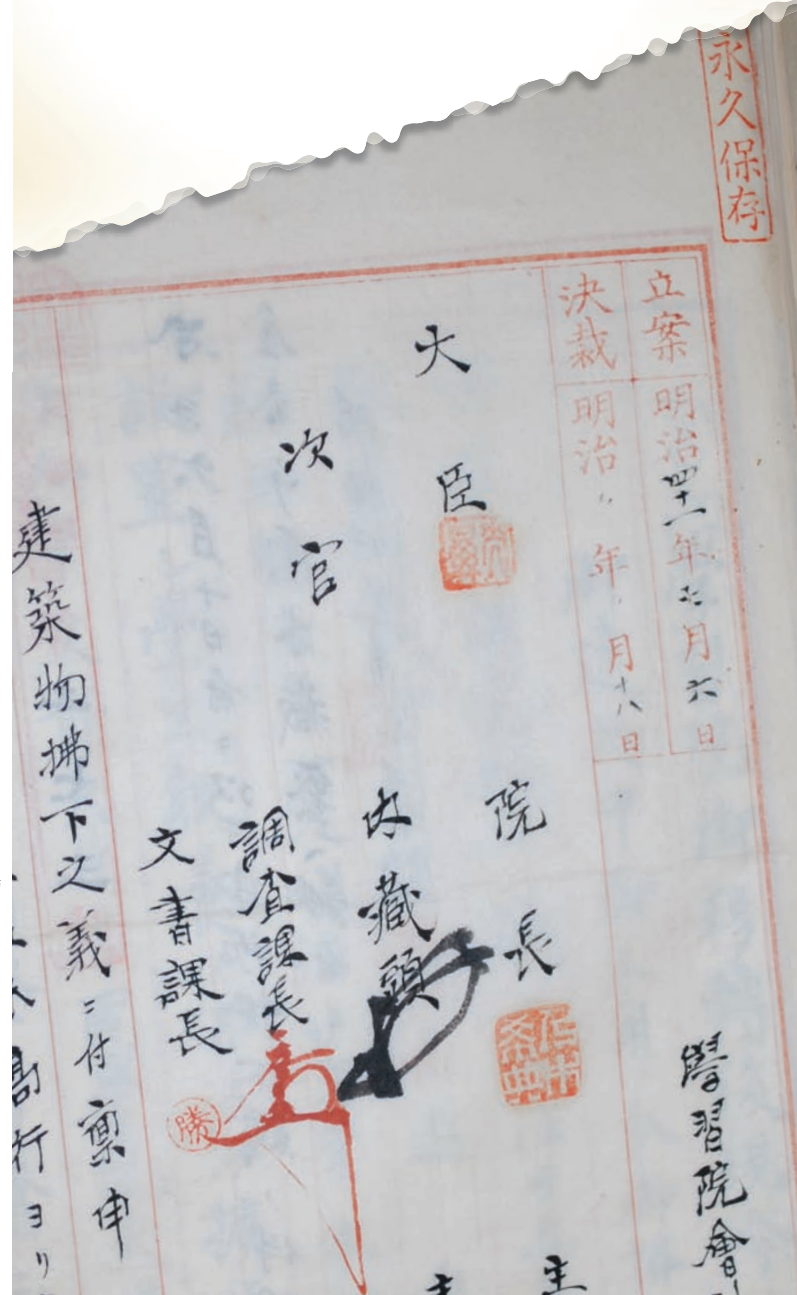


お問い合わせ先

学習院大学大学院 人文科学研究科 アーカイブズ学専攻
 〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1
 Tel: 03(3986)0221(代表)内線3817
 Fax: 03(5992)1246
 Mail: gcas-off@gakushuin.ac.jp
 URL: <http://www.gakushuin.ac.jp/univ/g-hum/arch/>
 2011.6.30

記録を守り 記憶を伝える

Graduate Course in Archival Science
 Graduate School of Humanities
 Gakushuin University



アーカイブズ学専攻

博士前期課程・博士後期課程
 学習院大学大学院人文科学研究科

育てアーキビスト 目白の杜から



アーカイブズ学とは？

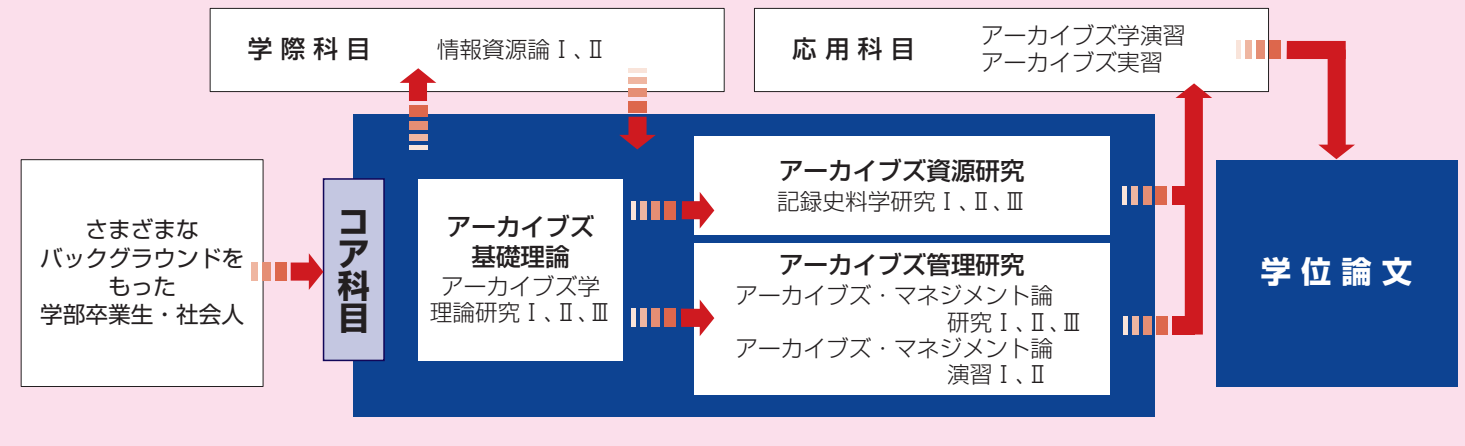
文書、映像、音声、電子データ—私たち人間は、過去から現在までさまざまな記録recordsを生み出してきました。記録なしには、行政も経済も文化も、おそらく一歩たりとも前に進むことができないといつてよいでしょう。

記録は、人々の歩みを証拠づける重要な歴史資料となります。と同時に、適切に保存されれば、新たな創造的活動を生み出す情報資源ともなります。これをアーカイブズarchivesと呼びます。国や地方公共団体から、企業・学校・民間団体などまで、あらゆる組織体や個人の記録を、人類共有のアーカイブズとしてどのように保存・活用していけばよいのか？その理論や技術を研究する学問分野がアーカイブズ学です。

何をめざすのか？

アーカイブズの保存・活用を担う記録情報専門職をアーキビストarchivistといいます。本専攻は、行政や企業のアーカイブズ部門、博物館や資料館、その他さまざまな分野でアーキビストとして活躍できる人材の育成をめざします。とくに博士前期(修士)課程では、広い国際的視野と高い学問的能力とともに、地域や組織の現実課題に正面から取り組む意欲と力量を兼ね備えた実務専門職の養成に力を入れます。また博士後期課程は、アーカイブズ学を強力に推進し、アーカイブズ学教育者としてアーキビスト養成をも担っているような、世界に通用する研究者の養成をめざします。

アーカイブズ学専攻のカリキュラムの考え方 (博士前期課程の場合)



何を学ぶのか？

本専攻の学生は、「アーカイブズ基礎理論」「アーカイブズ資源研究」「アーカイブズ管理研究」の3本柱からなる〔コア科目〕を中心に、〔学際科目〕と〔応用科目〕を学びます(上図参照)。本専攻のカリキュラムの特徴は、(1)歴史性と現代性の融合、(2)理論と実践の調和、(3)学際性、(4)国際性、などの点にあります。

たとえば理論と実践の調和という面では、博士前期課程の学生に、アーカイブズ機関での実習を1,2年次各2週間義務づけるなど、実務の現場に接する機会を多くするように工夫しています。

2010年度には、全国の公文書館・文書館、民間アーカイブズ、放送アーカイブズなどの10機関に実習生を派遣しています。また、学際性・国際性という点では、博物館など



「アーカイブズ実習」の授業風景

を含む国内外アーカイブズ関連機関への訪問研修や、海外の専門家による特別講義などを積極的に行っています。

なお仕事をもつ社会人が授業を受けやすいように、平日6時限目と土曜日に多くの授業を開講しています。

将来の道は？

本専攻の博士前期課程・後期課程修了者には、それぞれ「修士(アーカイブズ学)」「博士(アーカイブズ学)」の学位が授与されます。アーキビストやアーカイブズ学研究者への

道は決して広くはありませんが、将来性があり期待が持てます。今の時代、国や地方自治体はもとより、民間の企業や団体などにおいても、自ら有する記録を情報資源として有効に活用するとともに、広く一般に公開して社会への説明責任を果たすことが強く求められるようになってきているからです。2011年4月に画期的な「公文書等の管理に関する法律」が施行されたのも、その表われのひとつです。アーキビストやレコード・マネジャーなど、記録情報専門職に対する行政機関や企業の需要は、今後いっそう高まると予想されます。また、博物館や美術館、図書館などの情報関連施設や、大学・研究機関などでも、記録の保存・活用の重要性に目を向けるところが増えていきます。アーカイブズ学を学んだみなさんの有力な進路として期待されます。

2011年度授業一覧

科目の種類	科目名	担当教員(敬称略)	テーマ(授業内容)
必修科目	アーカイブズ学演習	安藤正人、保坂裕興	研究能力・問題解決能力の育成、学位論文指導(2年連続履修)
	アーカイブズ・マネジメント論演習Ⅰ	安藤正人・加藤聖文、森本祥子	整理と記述の理論およびその実践的修得
	アーカイブズ・マネジメント論演習Ⅱ	入澤寿美・研谷紀夫	コンピュータ情報処理理論およびその実践的修得
	アーカイブズ実習	安藤正人、保坂裕興	アーカイブズ機関実習と事前学習・事後総括(2年連続履修)
選択必修科目	アーカイブズ学理論研究Ⅰ	保坂裕興	アーカイブズ理論、法制度、専門職論、教育・普及など
	アーカイブズ学理論研究Ⅱ	安藤正人	日本および海外のアーカイブズ史
	アーカイブズ学理論研究Ⅲ	保坂裕興	海外基本文献の講読
	記録史料学研究Ⅰ	渡辺浩一	前近代日本の組織と記録
	記録史料学研究Ⅱ	中野目徹	近現代日本の組織と記録(国、地方自治体など)
	記録史料学研究Ⅱ	小風秀雅	近現代日本の組織と記録(企業など)
	記録史料学研究Ⅲ	武内房司	東アジアの組織と記録
	アーカイブズ・マネジメント論研究Ⅰ	安藤正人・石原一則	アーカイブズ管理論(システム設計から保存、活用、公開まで)
	アーカイブズ・マネジメント論研究Ⅱ	早川和宏	記録管理法制論(政府の記録管理に関する法について)
	アーカイブズ・マネジメント論研究Ⅲ	高山正也、古賀崇	レコード・マネジメント論(電子記録を含む)
選択科目	情報資源論Ⅰ	安江明夫	保存論(資料保存の考え方から修復・複製までの理論と方法)
	情報資源論Ⅰ	児玉優子	視聴覚アーカイブ論(映画、テレビ番組、録音等の保存と利用)
	情報資源論Ⅱ	水谷長志	図書館情報学概論(アーカイブズとの比較を含む)
	情報資源論Ⅱ	水嶋英治	博物館情報学研究(資料のドキュメンテーションほか)

様々な研究教育活動の紹介

1) 研修旅行

国内外のアーカイブズ機関等を訪問して、そのシステムや設備の見学、専門職員・研究者による講義の聴講、研究交流等を行います。



2008年度：沖繩研修、韓国研修 2009年度：茨城・栃木研修、中国研修
2010年度：長野研修、韓国研修

2) 学生の研究活動とその支援

学生の皆さんは、自らの研究を進めるにあたり、資料収集、フィールドワーク、機関訪問、学会発表等を行います。本学にはこれらを支援する様々な研究助成制度(例えば博士後期課程学生には年額20万円の助成等)があります。

また本専攻は、資料調査や学会参加等を奨励するため、独自に研究旅費(交通費・宿泊費)を補助し、研究を支援しています。

3) 客員教授と招聘研究者

アーカイブズの振興や学術研究に尽力してきた諸先生をお招きし、特別講義、講演会、討論会等を通して本専攻の研究教育に参画いただいています。

- 2007.11 ブルーノ・デルマ教授(エコール・デ・シャルト)
- 2008.10 デイビッド・グレイシー教授(テキサス大学)
- 2009.1～ 菊池光興本学客員教授(国立公文書館前館長、特別相談役)
- 2009.10 エリック・ケテラール教授(アムステルダム大学)
- 2010.7 金翼漢教授(明知中学校)



グレイシー教授による特別講義の様子

専任教員紹介

①研究テーマ ②近年の業績 ③共に学ぼうとする皆さんへの一言

安藤正人 教授 MASAHITO ANDO

- ① アーカイブズ史(戦争・植民地支配・核兵器とアーカイブズ)
- ② 『アジアのアーカイブズと日本』(岩田書院)
- ③ アーカイブズは、過去・現在・未来をつなぐ架け橋であるとともに、人々が国や民族の壁を越えて理解し合うための拠り所ともなります。日本のアーカイブズ学を拓く人材を待っています。

入澤寿美 教授 TOSHIHARU IRISAWA

- ① アーカイブズに適合したデータベースに関する研究
- ② 『思考力をつける情報活用[Office 2007]』(サンウェイ出版)
- ③ ICT(Information and Communication Technology)の活用は現在・未来ともに不可欠です。インターネットの仕組みやデータのデジタル化を理解して、現在・未来に通用するアーキビトを目指し共に学びましょう。

高埜利彦 教授 TOSHIHIKO TAKANO

- ① 日本のアーカイブズ制度の発展について記録史料学的に研究
- ② 「史料保存問題とアーカイブズ制度」(『日本歴史学協会年報』21号)
- ③ 社会が求める新しい学問・研究に参加し、これからの日本社会と世界を作り上げていきませんか。これほどやりがいのある、パイオニアとなりえる人文科学は他に見当たりません。

武内房司 教授 FUSAJI TAKEUCHI

- ① 東アジア記録学研究
- ② 編著『清代貴州苗族林業契約文書匯編(1736～1950)全三巻』(東京大学出版会)
- ③ 第三者の解釈や加工の加わっていない直接の記録ほど多くのことを訴えかけるものはありません。ともにそうした記録の大切さを学んでいければと思います。

保坂裕興 教授 HIROOKI HOSAKA

- ① 情報資源の利用者・利用方法研究、アーキビスト教育論
- ② 「日本における大学院アーカイブズ学教育の開始とその課題」(『アーカイブズ』34号)
- ③ どうしても解明したい<過去>、いつまでも伝えたい<現在>、こうありたいと願望する<未来>。これらに対して誠実に向き合おうとする時、アーカイブズがある。共に学びましょう。

森本祥子 助教 SACHIKO MORIMOTO

- ① アーカイブズの編成記述に関する研究
- ② 「これからのアーキビスト養成の課題についての一考察」(『学習院大学文学部研究年報』56輯)

※本専攻では一部で社団法人テキスタイル倶楽部からの指定寄付金を使わせていただいています。